

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214番地の2		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町提出日	令和2年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470501418-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のみならずご家族様をも含めた大家族として捉えている中では、日常的に交流がある。入居者を中心に職員ともざっくばらんな関わりとなっている。実家のように気軽に立ち寄り頂き、一緒にお茶を囲む中で心身の状態等近況報告させて頂いている。近隣の方が多く入居されている事もあり、知人の方にも立ち寄り頂き、行事等にも参加して頂いている。手作りの家庭料理を毎日美味しく食べて、行事に合わせた料理を味わう中で、心も身体も温かい気持ちになり、健康寿命を延ばして頂きたいと思っています。又終の棲家としてご本人ご家族の最期の迎え方を尊重している。緊急時の24時間医療体制も構築している。場合によっては主治医の指導の基、慣れた環境の潮風でご家族、職員に囲まれた中で、心穏やかな終末期を過ごして頂き、尊い看取りへと繋げさせて頂いている方もおみえになります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は津市阿漕浦海岸・結城神社の近くで、新旧の住宅が混在する静かな場所にある。地元の利用者が多く、日頃から家族が気軽に立ち寄って茶話会をしている。管理者をはじめ職員も長く勤めていて、個々の利用者の性格や嗜好をよく理解し、穏やかに楽しい雰囲気の中で毎日が送れるように支援している。利用者・職員、時には家族も一緒になって美味しいものを頂き、笑うことが一番と考えている。最期を事業所で迎えたいという希望があれば、職員が一丸となって出来るだけの看取りも行っている。また、減塩味噌作り講習会や防災学習会などを計画して地元の住民に参加を呼びかけ、年々その輪が広がってきている。何かあったら地域に頼ってもらえる場所づくりを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らせるここに合わせたオンリーワン支援、笑顔溢れる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族様職員が思いをひとつにした日常的な関わりの中で、我が家に居るようなんびりとした過ごし方を実践している。	利用者一人ひとりの尊厳を第一に、その人らしく穏やかに生活が送れるようにオンリーワン支援をするという理念に沿って、毎朝の申し送りの時間を多めに取り確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域を交えた交流として、その時々合わせた学習会やイベントの開催を工夫している。毎年恒例となった減塩味噌作り、防災教室、災害備蓄試食会は好評です。今年度はご家族様を講師にお迎えして干支の置物作りも開催大好評でした。	散歩時には挨拶を交わし、地域の運動会にも少人数ながら参加している。また、子どもSOSの駆け込み場所にも登録されている。管理者は常に地域に向けて啓発活動を考え、いろいろな講習会を企画して地域住民との関りを広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のご家族様が急変時に、ご相談にいられたり、少しずつ地域の中の認知症専門施設としての役割を担えるようになってきました。介護保険制度の事、認知症の事等、解り易く情報発信出来る勉強会等も工夫している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の近況、現況報告、地域内のリアルタイムな情報共有を行う場であり、必要な情報交換を実施解決に向けた話し合いの機会となっている。介護施設事業所として必要な情報を発信したり必要な学習会も開催している。	年6回、毎回テーマを決めて開催している。市職員・民生委員・利用者・家族に加えて地域住民が参加し、事業所の運営についての報告をし、貴重な意見交換の場となっている。今後も地域の人々と共に学ぶ機会を増やし、また、高齢者の困りごとについて相談の窓口のような役割を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的な相談や疑問に対して気軽に応じて頂いている。その都度解り易く細かなアドバイスや指導が頂けるのでとても心強い。	運営推進会議で市職員に講習をしてもらったり、何か分からないことがあった時には、その都度訪ねていき、顔を見て相談している。防災については危機管理室を訪ねてアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、潮風としての指針、その具体的な例を示したマニュアルを常備してすべての職員の共通認識としている。個々の危険の回避、安全対策を講じる方法等、ご家族様の意見も踏まえて職員間で随時検討している。	身体拘束の弊害等については十分に研修をし、職員の理解はできている。また、職員にアンケートを取り、具体的なケースや事例について話し合い、ケアに反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の内容、課題背景を示し、虐待のない介護を徹底するようにしている。介護リスクを全体の問題として捉える中で、情報を共有し、職員の内護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームにおいては日常生活自立支援事業等の関わりもなく、パンフレットで認識を深める程度、認知症事業所である為成年後見制度についてはマニュアルを活用して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスをお聞きしていく中で、ご本人やご家族の思い要望等を十分に傾聴し話し合いを深めるようにしている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いを言い出しやすいように声掛けを行っている。面会時を利用してご本人の状態を示し近況報告を行う中でご家族の思いや要望を聞かせて頂き、要望の実現に向けた支援を工夫している。	日頃から家族の面会は多く、お茶や食事を一緒にしながら状態報告をし、要望があれば聞いている。敬老会が年1回の家族交流会を兼ね、1家族3人まで参加できるようにして、毎年大勢の参加者がバイキング方式の豪華な食事を楽しみ盛り上がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用しその時々意見や提案、困りごと等をリアルタイムで記入しその都度の問題解決へと繋げている。	職員会議は持たず、毎朝の申し送りの時間を活用して報告・連絡・相談をしている。管理者が中心となって職員に伝達したい事柄を情報共有ノートに書き、職員全員が目を通してケアの統一を図っている。	現在の情報共有ノートは、有効に伝達の機能を果たしているが、職員の意見交換がより活発になされるツールとなるよう、ノートの在り方を工夫されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り個々の職員のライフスタイルを優先した勤務体制を実現している。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野のある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。その内容については全体の問題として捉え、話し合う機会としたり、内部学習として取り上げる等、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協議会、小規模ケア研究会、介護福祉士会、介護支援専門員協会、地域の医療従事者との交流を深める中で見聞を広めたり、研修会や行事等を活用する中でサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報を含めた中で、本人の願いやご家族の思いをゆったりと傾聴するように心掛けている。寄り添う中で信頼関係を築き安心感をもって頂けるような関係作りへと繋げている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事、求めている事を把握、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛ける中で信頼関係が構築出来るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われる事なく、対話していく中から真に必要な事を見極めていく。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事など個々に出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を發揮して頂いている。そのような機会がご本人の意欲を引き出し、自信の回復、生活力への喚起へと繋がっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、ご家族、職員がひとつの家族であり、日常的に気軽な交流がある。ご本人にとっては潮風が我が家であり、ご家族にとっては実家でもある。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望やご家族の情報等を聞かせて頂く中で、今までの本人を取り巻く関係等を勘案、可能な限り入居までの関係が途切れないように、大切にしながらの支援に努めている。	家族や友人、近所の知り合いなどが訪ねて来てくれる。比較的近隣からの入居が多く、津祭りには八幡宮や結城神社での催しを楽しみにしている。お正月には、家族が大人数で賑やかに面会に来てくれる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の身体状態と性格、趣味や職業など、今までの生活環境をも勘案する中で、相性の良い方を見極め、より良い関係作りへと繋げていけるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院に伴い退居された方、潮風で看取りをさせて頂いた方、そのご家族が立ち寄り下さったり、相談に応じたり、日常的に交流させて頂いている。運営推進会議や行事等にも参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の思い、希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出していくように努めている。	その人その人の様子を見ながら、本人にとって何が必要なことなのかを常に考えて、オンリーワンの支援を目指し、利用者自身が満足し笑顔で生活できるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や過ごし方など、ご本人とご家族からの情報を基に、今まで慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るように常に心掛け、日々の生活に反映出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるように側面的な支援を心掛けている。その時々々の思いや希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族がどのように過ごしたいと思っられるかを聞かせて頂く中で、状態の変化に応じたリアルタイムな検討を重ね、ご本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を立案している。	介護計画は順調であれば6か月毎に見直している。白紙の用紙に直接家族に書いてもらった本人・家族の意向を基に、介護計画担当者が作成している。状態変化にはリアルタイムで担当者会議を開いて検討し、利用者にとって最適な介護を目指している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える中で、リスク管理に必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法を情報共有ノートとして日常的に活用している。個別な支援の充実へと繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる、個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会ともなっており、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方、自治会、民生委員、入居者ご家族、医療福祉関係者、ボランティアさん等の交流、ご協力を通して社会性の充実を図り、安心して安全に楽しんで暮らせる生活作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族様の意向を反映した上で、協力医療機関による24時間の在宅医療サポート体制がある。定期往診及び24時間対応による随時の相談、診療体制も可能となっており安心できる体制となっている。	入居時に、本人・家族の意向を確認して主治医を決めている。24時間対応可能な協力医には、緊急時に対応できるように全員のカルテは作ってもらっている。他科の専門医の受診は家族の協力を得ている。宗教上のことで困難な事例があるが、家族と相談しながら対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関、主に担当看護師には日常的に相談している。リアルタイムな情報交換、情報共有を密にする中で、その都度適切な指導やアドバイスがあり、安心できる体制が構築されている。又地域の看護師との交流も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、ソーシャルワーカー、地域連携室等との交流を日常的に行う中で、最善な対応が可能となるような関係作りの構築に日々努めている。人となりを含めた介護サマリを作成し、情報提供・面会等療養生活を側面的に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃からご家族、主治医との話し合いを重ね、万が一に備えている。並行して、個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けて意思統一を図っている。	入居時に看取り支援について本人・家族に説明をし、終末期を迎えた時には事業所独自の重度化・終末期対応の指針を基に、事業所でできることとできないことを伝えて家族の意向を確認している。最期まで事業所での希望があれば職員が全力で看取りに取り組んでいる。亡くなった後に家族から感謝の声が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず的確な行動が可能となるように、緊急時に必要なその対応方法を全職員に具体的に示し情報共有する中で認識を深めている。一方でその方法を事務所及び施設内に具体的に掲示し、とっさの場合に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的な方法をリアルタイムで情報発信し、ご家族・職員・地域の中で情報共有している。入居者職員には避難訓練、ご家族様には年1回9月に防災訓練を実施、地域には運営推進会議を活用し情報の共有及び協力体制を構築している。	事業所が海岸近くであることから、津波の心配は大であるが、出来ることをやっいて、消防署立会いの通報訓練、火災や地震の避難訓練、そして地域住民にも参加を呼び掛けて防災学習会・備蓄食品の試食会などを計画し、協力体制を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については職員間で十分に意思統一を図って対応している。個々に応じたその人にふさわしい対応をその都度工夫している。	利用者は自分が大切に扱われているという思いがあれば、日々笑顔で穏やかに過ごしてくれる。一人ひとりの尊厳を大切にし、オンリーワン支援を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちに寄り添う中で、その時々のお思いを共有、共感し、真の思いが意思表示して頂けるように、側面的な働きかけをその都度工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自身を持って生活して頂けるように、職員はさりげなく、その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、ご本人の希望をとり入れた過ごし方が可能となるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、安楽な着脱を優先しつつも、好みを優先した洋服をコーディネートさせて頂いている。ヘアスタイルも身だしなみとして、行きつけの美容院へ行かれる方、こまめに潮風カットを楽しんで頂いている方！と色々です。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストに応えたり、地域の方等に頂いた旬の食材を献立に加えたり、行事に合わせた食事やおやつ等手作りならではの温かい料理を楽しんで頂いている。職員も同じテーブルを囲み会話しながらの食事でも楽しみな貴重な時間となっている。	献立はその時々旬の食材を使い、利用者・職員が同じものを食べ、「美味しいね」と楽しく会話しながら頂くものとしている。食材は多めにストックし、家族や馴染みの友人に振る舞うことも度々ある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み、主治医の意見等を勘案する中で、個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態と好み等を考慮し、食事を楽しみとして頂けるように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残差物の除去、朝夕の歯磨き、うがい等必要な方法で口腔内洗浄、夜間は、歯ブラシコップ等はミルトン、義歯は外してポリドント、それぞれ洗浄後消毒している。個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意ある方、曖昧な方を問わず特別な事情のない限り、日中はトイレ使用を基本とし、自然な排泄が可能となるように支援している。定期的な対応の他、気配や訴え等随時に対応する中で側面的な自立支援へと繋げている。	時々失敗する方については、失敗しても大丈夫である事を伝えて、リハビリパンツを使用しており、布パンツの方を含め6名の方が自立してトイレで排泄が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用する中で、個々の排泄リズムを確認、又食生活を工夫する中で整腸に努めている。必要に応じて腹部マッサージを試みたり体操、歩行、散歩等、楽しみながら行える日課作りも工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康管理の手段のひとつとして入浴を楽しんで頂いている。お湯をなみなみと入れてゆったりくつろがれる方、温度を上げて熱くしてから出られる方、思い思いに楽しまれ、気分転換にもなり、健康維持におおいに役立っている。	午後の時間帯で1日置きに入浴支援を行っている。浴槽の手前部分が開閉式になっていて、中に浸かり易い工夫がある。利用者全員が入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせる中で、日中は楽しみな時間を共に過ごすように心掛けている。季節を感じて頂く機会ともなる為、1日1回は日光浴や散歩を楽しみ、夜間の安眠に繋げるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効、服用方法、薬害、リスク等の理解を深め認識を徹底している。日常の関わりの中で、いつもと違う微妙な変化を察知する視点を常に持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた家事を手伝って頂く中で、自信の回復自信の喚起へと繋げている。職員も含めた大家族の中で出来る家事を分担し協働する事が自身の役割意識、連帯感、安心できる居場所へと繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩は近隣の方とのふれあいの機会となり、季節を感じて頂く機会ともなっている。季節行事を楽しむための外出や随時の外出行事も工夫している。ご家族様のご協力を頂いて外食等外出される方も居られる。	天候のいい日には玄関前のベンチに腰掛け、日光浴しながらお茶や会話を楽しみ、地元の住民と挨拶を交わしている。高齢化に伴い全員で遠出する機会は少なくなっているが、近所の散歩が主で、桜公園にお弁当やおやつを持って出かけることもある。外食も含めて家族との交流機会を工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様の意向に沿って対応させて頂いているものの、本人が希望されるもの、食べたいものなどをおやつに取り入れたり、献立に加えたり対応する中では、特に使い道もなく、お金を所持される方もみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人との交流が活発に継続して頂けるように支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その都度の思いの実現に必要な支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビング、各居室には季節を感じて頂けるような落ち着いた展示物を工夫している。入居者の得意を發揮して頂く場ともなっている。行事のスナップや個々の思い出の写真なども多数掲示しており、満足気に眺めては会話の糸口ともなっている。	リビングの天窓からは柔らかな光が差し込み、明るい雰囲気である。廊下も広く、居室への導線が分かり易い。どの壁面にもイベント時の利用者の笑顔のショットや、手作り作品が掲示されている。食卓とは別に、テレビを囲んでゆったりとくつろげるソファが置かれたスペースで思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームは日常的に集う場所となっており余暇の交流を楽しむ空間となっている。ソファは気の合う人のおしゃべりやご家族や知人とのふれあいの場となっている。我が家のように思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだこだわりの物を配置したり、楽しく過ごした思い出の写真等を掲示したり、落ち着ける場所となるように工夫している。ご家族や知人の来訪時にはお茶を囲んでゆったりと過ごして頂けるような空間も工夫している。	居室にはベット・クローゼット・テーブル・椅子が設備され、個々に自宅から慣れ親しんだ家具などを持ち込んでいる。居室入り口には利用者の顔写真と、災害避難時の個々の対応について記された札が掛かっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を含めた身体及び精神機能を勘案する中で、個々の動きに合わせた自立に向けた動線の確保を基本とする中で、安心して安全に過ごして頂けるような支援を工夫している。		